

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	島根県
-------	-----

学校の概要 (平成15年4月現在)

学校名	大社町立荒木小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	2	2	2	2	14	
児童数	52	67	57	66	64	72	2	380	21

研究の概要

1. 研究主題

<p>「自ら考え、共に学び合い、実践する子どもの育成」 —— 確かな学力の向上をめざして ——</p>
--

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

<ul style="list-style-type: none"> ・ 3～6年生・総合的な学習の時間 (1・2年生・生活科、特殊学級・生活単元学習) これまでの研究実績があり、児童の主体性と実践力を倍うのに適しているため ・ 全学年・算数科 児童の理解の程度に差が出やすい教科であると共に、考える力を伸ばす教科であるため
--

(2) 年次ごとの計画

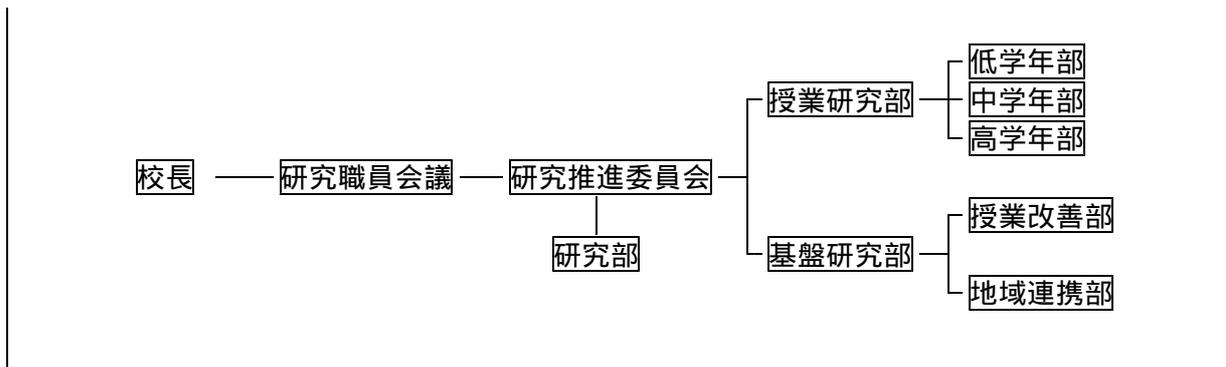
平成15年度	<p>テーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 主体性と実践力を伸ばすための地域連携の工夫 (総合的な学習の時間を中心にして) ・ 思考力と共に学び合う力を伸ばすための授業改善の工夫 (算数科を中心にして) <p>研究の見通し (仮説)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもの求めや願いを大切にされた単元構成と地域講師を効果的に活用する場の工夫をすれば、主体的に課題を追求し、実践しようとする子どもが育つであろう。 ・ 算数的活動を重視し、自ら考え表現し合う場を工夫すれば、思考力を伸ばし、共に学び合う力が育つであろう。 ・ 評価活動を工夫し、個に応じた支援を行えば、主体的に課題を追求しようとする子どもが育つであろう。 <p>研究の内容・方法</p> <p>ア 地域の特性を生かした単元構成の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもの求めや願いを大切に、地域の特性を生かした単元構成 ・ 地域講師を効果的に活用する工夫 ・ 実践活動の工夫
--------	---

	<p>イ 指導方法・指導体制の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自ら考え表現し合う場を位置づけた学習過程の工夫 ・算数的活動の工夫 ・T T 指導、少人数指導（課題別・習熟度別等）の授業の工夫 <p>ウ 評価活動の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各教科、総合的な学習の時間の評価規準を生かした指導と評価の一体化 ・自己評価と相互評価の工夫 <p>エ その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域連携の推進 ・学習環境作り
--	--

平成 16 年度	<p>テーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主体性と実践力を伸ばすための地域連携の工夫 （総合的な学習の時間をはじめとする各教科等において） ・思考力と共に学び合う力を伸ばすための授業改善の工夫 （算数科を中心に、他教科においても） <p>研究の見通し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの求めや願いを大切にしたい単元構成をし、地域と共に学ぶ場の工夫をすれば、主体的に課題を追求し、実践しようとする子どもが育つであろう。 ・自ら考え表現し合う場を工夫すれば、思考力を伸ばし、共に学び合う力が育つであろう。 ・評価活動を工夫し、個に応じた支援を行えば、主体的に課題を追求しようとする子どもが育つであろう。 <p>研究の内容・方法</p> <p>ア 地域の特性を生かした単元構成と教材開発の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの求めや願いを大切に、地域の特性を生かした単元構成と教材開発の工夫 ・地域講師を効果的に活用し、地域の人と共に学ぶ場の工夫 ・実践活動の工夫 <p>イ 指導方法・指導体制の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自ら考え表現し合う場を位置づけた学習過程の工夫 ・算数的活動の工夫 ・T T 指導、少人数指導（課題別・習熟度別等）等の授業の工夫 <p>ウ 評価活動の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各教科等の評価規準を生かした指導と評価の一体化 ・自己評価と相互評価の工夫 <p>エ その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域連携の推進 ・学習環境作り
----------------	---

(3) 研究推進体制

<p>研究推進委員会・研究部会を中心にして、全教職員の共通理解のもと、全教職員で実践する体制づくりをした。</p> <p>算数科を中心とした「授業改善部」と総合的な学習の時間を中心とした「地域連携部」において、授業の基盤づくりをし、それをもとに、各学年部で授業実践を行うようにした。</p>



平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

(1) 地域の特性を生かした単元構成の工夫による成果

- ・子どもたちの興味・関心があり、身近に情報収集ができる単元を設定したことで、学習意欲が高まり、進んで課題解決をしようとする子どもが増えた。
- ・地域講師と関わる場をできるだけ多く設定し、具体的なねらいを明確にしたことにより、主体的に課題解決をしようとする姿が多く見られた。また、自分にできることを考え、実践活動をしようとする姿が見られた。

(事例1) 4学年「大槌七兵衛たんけん」における地域講師の活用

荒木の偉人大槌七兵衛さんについて自分なりに課題を見つけ、課題解決に必要な地域講師を公民館で紹介してもらい、何度も質問に行ったり来ていただいたりして課題を追求していった。中間発表会では、地域講師の方にアドバイスを受け考えを深めることができた。

(事例2) 5学年「支え合って生きよう」における地域講師の活用

福祉について考え、グループに分かれて実践を行った。「荒木小5年生子どもフォーラム」では、実践発表をし、専門家から具体的なアドバイスを受け、さらに活動を深めることができた。

(2) 指導方法・指導体制の工夫による成果

- ・総合的な学習の時間における学習過程を明確にしたことで、今まであまりできなかった実践活動に取り組むことができた。
- ・算数科における学習過程を明確にし、子どもたちに明示したことで、学習の筋道が分かり、自分なりに考え表現しようとする子どもが増えた。

(事例3) 3学年「かくれた数はいくつか考えよう」

課題提示をした後、個々に考える時間をとり、みんなで考えを出し合い、課題解決を行った。みんなで考えを出し合う際、まず分からないことや困ったことをみんなの前で発表し、それについてみんなで考えを出し合ったことで、考えを深めることができた。

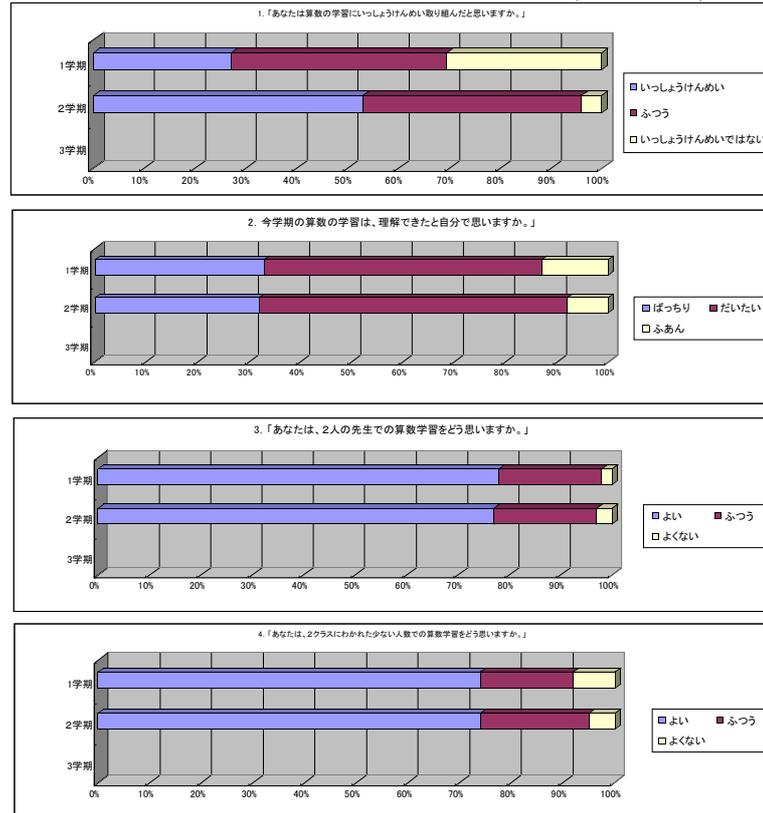
- ・授業の中に算数的活動を位置づけたことで、楽しく学習に取り組み、自分なりに考えようとする姿が見られるようになった。また、授業の初めに、ゲームやパズルなどを取り入れることで、算数に対する抵抗が少なくなった。

(事例4) 6学年「体積」

単元の導入で、「どの箱にたくさん入るかな」という問題を提示し、自分なりに考えた方法で確かめた。様々な方法で調べていく中で、体積の概念や量感をとらえることができた。

- ・単元や内容によって、TTで指導したり、少人数指導を行ったりしたことにより、算数に対する苦手意識が減り、意欲的に分かるようとする姿が見られるようになった。

< 学期末に行った少人数授業に対するアンケート結果(一部抜粋) >



グラフ1・2からもわかるように算数の学習に一生懸命取り組む子どもが増え、学習内容を概ね理解していると感じている子どもが増えた。また、グラフ3・4からもわかるようにTT指導や少人数指導に対して、子どもたちは肯定的に捉えている。2学期は少人数指導の方法について検討し、それぞれの学年で工夫した取り組みをしたため、効果が現れたのではないかと思う。

(3) 評価活動の工夫

- ・各教科・総合的な学習の時間の評価規準を明確にしたことで、次時の指導に生かし、個に応じた支援ができるようになった。
- ・自己評価カードを利用し、活動のふり返りをするにより、自分自身の取り組みを見直し、次への意欲につなげることができた。また、相互評価を取り入れることで、自分や友達のよさに気づき、次への活動に生かすことができた。

2. 今後の課題

総合的な学習の時間において、地域や地域講師から学ばせてもらうだけでなく、自分たちから地域に発信したり、地域に働きかけたりする場を積極的に設け、さらに主体的に実践する子どもを育てたい。

総合的な学習の時間だけでなく、各教科等における地域連携のあり方も検討していきたい。

算数的活動をさらに重視し、子どもたちが主体的に活動できるようにしたい。さらに、他教科における授業改善の在り方も検討し、自分なりに課題を追求する力を伸ばしたい。

評価の在り方を検討し、自己評価や形成的評価に加え、診断的評価も効果的に活用し、個に応じた指導ができるようにしていきたい。他教科においても、評価規準を有効に活用し、指導に生かしていきたい。

学力等把握のための学校としての取組

学力テスト

- ・ 2～6学年は5月と2月(1学年は2月)に、目標基準準拠検査(CRT)を実施している。
- ・ 個々の実態把握をし、個に応じた指導に役立てると共に、学年及び全校としての傾向を把握し、指導に役立てている。

形成的評価

- ・ 評価規準に照らしあわせ、毎時間、教師による観察とノートやワークシート、小テスト等によって評価し、個に応じた指導や次の時間の指導に役立てている。

自己評価カード

- ・ 算数科においては、授業後「ふり返りカード」を書き、個々の理解の程度や思いを知り、学習コースの選択や次時の指導に役立てている。
- ・ 総合的な学習においては、授業後活動内容に応じた「ふり返りカード」を書き、個々の活動の様子や思いを把握し、個に応じた支援に役立てている。

少人数授業等に関するアンケート

- ・ 全学年が学期末に、少人数授業等に関するアンケートを実施している。
- ・ 児童の意欲や関心を把握し、指導に役立てている。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

授業研究会の公開

- ・ 11月10日(月) 荒木小学校において、町内の学校と出雲地区のフロンティアスクールを対象に4学年と5学年が総合的な学習の時間(ゆうゆうタイム)の授業公開を行った。
- ・ 総合的な学習の時間(ゆうゆうタイム)における効果的な地域連携のあり方を中心にした授業を行った。

ホームページにおける情報発信

学力向上に向けての考え方や実践を広く知らせるために、ホームページを作成している。

研究成果の普及のための活動

- ・ 授業研究会で本校の取組を資料として配付した。
- ・ 本校の学力向上の取組を図式化して、保護者に知らせる。
- ・ 学力テストを保護者へ返却する際、取組の成果を知らせる。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校

【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上

【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 一部教科担任制 その他

【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無